

SSH通信第78号で紹介した、異分野融合サイエンス(FS)の第2回から第4回が7月から9月にかけて実施された。今号では、その中から「アートを科学する」・「伝統野菜へのサイエンスアプローチ」・「工学と医療」の3つのコースの様子を紹介する。

## アートを科学する

繊維と洗濯について  
1年生女子

アートコースでは山形県工業技術センターで賜試験場で繊維と洗濯について、実験を通して詳しく学んできました。まずは繊維の基礎として、天然繊維である綿は熱に強いが、化学繊維であるナイロンは熱で変形してしまうなど、繊維の中にも大きな差があることや、織物や編物の作り方を教えて頂きました。他にも箱を使つての織物体験や、ハンカチを染める染色体験もさせて頂き、とても楽しく繊維について学ぶことができました。

次に、洗濯で汚れが落ちる仕組みをプリントで解説して頂いた後、実際にピーカーの中で汚れに対応した洗剤を使い様子を観察しました。するとすぐに汚れが消えて驚きました。洗剤なんてどれも同じだと思っていました。洗剤の間違ひだったことに気づくことができました。これからは汚れごとに使い分けていこうと思います。



## 伝統野菜へのサイエンスアプローチ

伝統野菜へのアプローチ  
1年生男子

僕たちの班では、伝統野菜のウコギを科学的に分析し、地域活性化につながる取り組みをしています。これまで山形大学名誉教授の尾形健明先生から歴史と栄養成分の講義を受けました。今回は芳泉町ウコギかき根保存会の方に案内して頂き、実際にウコギの垣根から採取をしました。生で初めてウコギを食べたのですが、やはり青臭い味ですごくエグみが強かったです。そのため、実際は茹でたりして食べる事が多いです。しかし、目標はどう美味しく商品開発ができるか。今後の活動に胸が躍ります。

## 工学と医療

医療機関見学を通して  
1年生女子

今回のFSでは米沢市立病院で見学をさせて頂きました。私は医師コースと、臨床検査技師コースの2つを見学しました。

医師コースの方ではICU(集中治療室)、救急科、放射線科、手術室を見学しました。救急科では、見学している最中に患者さんが運ばれてきて、治療を受ける場面に立ち会えたのが印象的でした。臨床検査技師コースでは、4つの検査を順番にまわりました。一番おもしろかったのは病理検査です。手術で摘出した細胞をプレパラートにして色を着け、実際に健康な細胞とガン細胞を顕微鏡で見せてもらったのが良い経験でした。臨床検査技師という仕事を良く知れたと思います。

医療機関見学を通して、医療の現場はチームワークがとても大切だということ学びました。進路を考える良い機会になりました。

